

2025年度業務実績報告書

提出日 2026年 1月 16日

1. 職名・氏名 教授・徳野 淳子

2. 学位 学位 博士, 専門分野 情報科学, 授与機関 北陸先端科学技術大学院大学, 授与年 2005年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 情報基礎演習（1単位）、ICTリテラシー（2単位） 1年次 4クラス担当
② 内容・ねらい（自由記述） パソコンの管理と操作方法、レポートや論文・発表資料の作成など学術的な目的での各種アプリケーションソフトやクラウドサービス、生成AIの利活用、情報倫理や情報セキュリティ等を学ぶ。大学での学修や卒業後の社会生活に必要なICTリテラシーを習得させることがねらいである。2025年度は、海洋生物資源学部に対しては旧カリキュラムの「情報基礎演習」（1単位）」として、それ以外の学部に対しては、同様の内容に事前事後学修を追加した新カリキュラムの「ICTリテラシー」（2単位）科目として開講した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 2025年度から開始した新カリキュラムに合わせて、昨年度までの「情報基礎演習」の内容を一新し、他の担当教員と協力して教材の更新や作成を行った。また、従来から利用してきたタイピングソフトをクラウド版に移行したが、その設定と管理を担った。 授業では、レポートや発表資料の作成等、大学での学修における生成AIの利活用方法と利用上の注意点について、特に時間を割いて説明した。また、学生が作成したレポートを相互評価するグループワークなども取り入れた。 今年度から完全にBYODに移行したことで、学生のWi-Fi接続や、プリンタの利用等に関する質問が増えたが、授業外の質問にも対応し、学生のICT利用を支援した。 加えて、今年度から、高等学校で「情報I」を履修した学生が入学することを踏まえ、学生の入学時の能力把握と今後の情報教育の改善に利用する目的で、昨年度に続き、情報プレースメントテストを実施・分析した。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 情報科学I（1単位）、情報科学（2単位） 1年次 3クラス担当
② 内容・ねらい（自由記述） 以下の項目について学修し、情報社会を生きる上で必要な知識と思考を習得させることがねらいである。 (1) 情報社会で起きている変化 (2) 情報倫理、情報を扱ううえでの留意事項、情報セキュリティ (3) 情報をクリティカルに読み解く能力（メディアリテラシー） (4) コンピュータのハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの仕組みと機能 (5) 社会におけるデータ・AIの利活用、留意事項 2025年度は、海洋生物資源学部に対しては旧カリキュラムの「情報科学I（1単位）」として、それ以外の学部に対しては、同様の内容に事前事後学修を追加した新カリキュラムの「情報科学（2単位）」科目として開講した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

本講義は、複数クラスを開講しているが、クラス間での授業内容に大きな差が出ないように共通の教科書を使用している。このほか、本学で進める「全学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」の構成科目であることから、数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアムで開発されたリテラシーレベルモデルカリキュラム教材を参考にしている。

本講義には、高等学校の「情報Ⅰ」の復習も含まれることから、適宜、クイズ形式で学生の理解度を確認しながら講義を実施した。また、情報社会を取り巻く法や技術を説明する際は、身近な事例や最新の話題を取り上げた。

昨年度と同じく、企業の方によるゲストスピーカー講義を実施したほか、経済学部クラスにおいては、福井県産業情報センターで開催された「クマンドウデジタルアライブ 2025」（主催：（公財）ふくい産業支援センター）に参加した。これにより、産業界におけるAIの活用状況や、インフルエンサーといった多様な職業の在り方など、講義内容の実社会での応用について学ぶ機会を設けた。

個々の学生の理解度を把握するために、毎回の単元に関する簡単な設問を提示し、Google フォームを用いて回収した。また、単元ごとに復習テスト（オンラインテスト）を実施し、その都度理解度を確認した。

【ゲストスピーカー：1人】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
情報技術者（国家試験Ⅰ）（2単位） 1年次

② 内容・ねらい（自由記述）

情報処理推進機構（IPA）が実施する国家試験「ITパスポート」に準拠し、ITを利活用する全ての社会人に求められる共通的知識を習得させることがねらいである。「情報科学（情報科学Ⅰ）」で学修したコンピュータやネットワークの仕組み、情報倫理やセキュリティ、AI（人工知能）に関する知識を補強しつつ、新たに経営戦略やプロジェクトマネジメントなどの実践的手法について学修する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

学生の理解度を高め、「ITパスポート」の取得にもつながるように、毎回、「ITパスポート」の過去問題を解きながら、理解の定着を図った。学生自身がその場で解答の正誤を確認できるようにし、授業では、学生の理解度が低い問題を中心に解説した。

対面とZoomによるハイフレックス型であることも踏まえ、学生が質問しやすい環境を整えるため、ZoomおよびGoogleフォームに質問箱を設けた。寄せられた質問に対しては、次の授業で回答（フィードバック）を行った。また、教科書の内容を補足した授業資料を毎回LMSに掲載し、学生が学修の振り返りに利用できるようにした。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
データサイエンス基礎（2単位） 1年次

② 内容・ねらい（自由記述）

データを扱うために必要なスプレッドシートの基本操作を習得する。また、データを適切に読み解き、説明するために、データの種類、データの可視化手法、データの分布や代表値、相関と因果、集計処理、代表的な確率分布等について演習形式で学修する。専門教育に応用できるデータリテラシーを習得させることがねらいである。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

2025年度から開始した新カリキュラムに合わせて、昨年度までの「情報処理基礎演習」の内容を一新し、他の担当教員と協力して教科書を作成した。また、本講義は、本学で進める「全学数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の構成科目であることから、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムで開発されたリテラシーレベルモデルカリキュラム教材も参照している。

授業では、Googleフォームでアンケートを作成し、受講生同士で回答し合い、その結果を集

計して分析するなど、教科書で学んだ知識が実践的な場で活かせるように工夫した.
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 メディア情報リテラシー (2 単位) 1 年次
② 内容・ねらい (自由記述) 映像やニュース、広告、SNS、AI 生成メディア等、様々なメディア分析を行う。また、インターネット上の権利や法制度について学修する。メディアが発信する情報を批判的に読み解く能力であるメディアリテラシー、情報にアクセスし、評価・活用する能力である情報リテラシー、および、その周辺にある様々なリテラシーを統合した能力を養うことがねらいである。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 今年度から新たに開講した授業である。生成 AI によるディープフェイクやダークパターンなどの最近の問題を取り上げ、学生の関心を高めるよう工夫した。また、学生自身がニュースを制作し、その内容を相互に確認する演習を通して、情報の受け取り手による評価の視点の違いや多様性、現在のニュース報道の在り方について理解を促した。 複数キャンパスから受講可能とするため、対面と Zoom によるハイフレックス型で実施した。オンライン参加者とのグループワークに困難を伴う場面もあったが、教材を工夫し、Zoom のブレイクアウトルームを活用することで、全受講生が参加できるよう配慮した。
(2)その他の教育活動
① 担当科目名 (単位数) 福井大学で非常勤講師を担当 地域コア I 「メディアリテラシー」 (2 単位)
② 内容・ねらい (自由記述) メディアリテラシーの基本的な考えやメディアとしてのインターネットの特性を学修し、情報を主体的に吟味し、批判的に読み解くための能力を身につける。また、大学生に身近な事例や医療現場で起きているソーシャルメディアを取り巻く問題などを取り上げながら、情報の取り扱いとインターネットで情報を発信する際のルールとマナーを身に付ける。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 広告や CM、ニュース番組や新聞、電子メールやソーシャルメディア、フェイクニュース、生成 AI など、身近なメディアやそれを取り巻く問題を取り上げながら、学生が興味を持てるよう工夫した。
④ 本学における業務との関連性 (自由記述) 本学で担当している「メディア情報リテラシー」、「情報科学／情報科学 I」をはじめとする情報教育にも強く関連する科目であり、本講義を行うことで、他の授業の改善にもつながっている。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 著書 1. 徳野 淳子, 田中 武之, 谷川 衝: Excel/Google スプレッドシートで学ぶデータサイエンスの基礎, 近代科学社 Digital, 2025 年 2 月
【 1 本】
② 学術論文 (査読あり)
【 0 本】
③ その他論文 (査読なし)
【 0 本】

④ 学会発表等
1. 高橋 尚子, 稲垣 知宏, 上繁 義史, 河村 一樹, 喜多 一, 辰己 丈夫, 中鉢 直宏, 徳野 淳子 , 中西 通雄, 匹田 篤, 堀江 郁美, 山際 基, 山口 泰, 湯瀬 裕昭: 一般情報教育に関する全国大学調査の結果概要, 情報処理学会 情報教育シンポジウム 2025 論文集, p.205-210, 2025 年 8 月 12 日 2. 徳野 淳子 : 2025 年度大学新生の情報に関する知識・技能の変化に関する分析, 大学 ICT 推進協議会 2025 年度 (AXIES2025) 年次大会, 2025 年 12 月 1 日 【 2 件】
⑤ その他の公表実績
1. 徳野 淳子 : 村田 知也: 数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム 北信越ブロック 第 5 回シンポジウム, 人文・社会科学系 応用基礎レベル モデルシラバスと取組事例の紹介 事例紹介 3, 2025 年 2 月 10 日 【 1 件】
(2) 科研費等の競争的資金獲得実績
1. 2023～2025 年度, 文部科学省科学研究費補助金基盤研究 B (課題番号 23K25704, 研究分担者), 「一般情報教育のデジタルトランスフォーメーション (DX)」 2. 2024～2026 年度, 文部科学省科学研究費補助金基盤研究 C (課題番号 24K06286, 研究代表者), 「一般情報教育のカリキュラム設計を目的とした正課内外の活動に基づく学生の類型化」
(3) 特許等取得
(4) 学会活動等
情報処理学会「一般情報教育委員会」委員 (2017 年 4 月～現在)

5. 地域・社会貢献活動

- 福井県産業情報センター 令和 5 年度外部評価委員会委員 (2021 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日) - 福井市 D X 推進会議委員 (2022 年 10 月 7 日～2027 年 3 月 31 日) 2025 年 9 月 25～28 日に福井県産業情報センターで開催されたクマンドウデジタルアライブ 2025 (主催: (公財) ふくい産業支援センター) に「情報科学」の授業の一環として参加したほか, 興味のある学生にも参加を呼び掛けた.

6. 大学運営への参画

(1) 補職
情報センター副センター長
(2) 委員会・チーム活動

- 教育研究審議会（オブザーバー参加）
- 部局長会議
- 学生支援委員会 副委員長
- 情報教育・DX 委員会委員
- 共通カリキュラム全学会議委員
- 時間割・カリキュラム協議会委員

(3)学内行事への参加

- 業務を 1/2 にする生成 AI 福井県大セミナー（講師：情報センター・村田准教授）（2025 年 7 月 15 日）
- 福井県大生成 AI 活用セミナー 中級編 AI に働かせるやり方（講師：情報センター・村田准教授）（2025 年 11 月 11 日）

(4)その他，自発的活動など

- 「全学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の推進，自己点検，情報発信（ホームページの管理），新カリキュラムによるプログラムの再設計，変更届の作成，取り纏めを担当 ※2025 年 12 月に文部科学省にプログラム（リテラシーレベル，応用基礎レベル）の変更届を提出し，受理された。
- 数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアムが開催する各ブロックのシンポジウムへの参加，最新の動向や事例等の情報収集
- 学生・教職員の ICT サポート，質問対応
- 情報センター非常勤講師担当科目の窓口対応